

世界の人びとのための JICA 基金活用事業 活動報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	「ケニアにおける循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業(2年目)」(通常枠)
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 Little Bees International
(3) 実施期間	2022年2月14日～2023年2月13日
(4) 実施国	ケニア共和国
(5) 活動地域	Baga Dogo 地区
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>ケニアの首都ナイロビでは、中国資本を中心にした大規模インフラ整備・開発が進む一方、極端な貧富の差が拡大し、失業率も高止まりのまま、住民の30%以上が1日1.9ドル以下の最貧困ラインでの生活を余儀なくされています。また、急速な開発は環境破壊を進展させ、ナイロビ市の中心部を流れるナイロビ川の河川敷もゴミで覆われ、空気、土壌、水の環境汚染も深刻化しています。さらに、貧困層住民10人のうち4人がHIV陽性といわれ、またその内5割近くの女性がシングルマザーの状況にもあります。貧困家庭の子どもたちも4割近くが学校に通えない状況にもあります。そうした環境を改善するためのエンパワーメント事業が、本事業になります。ナイロビ市のジーンズ工場から排出されるデニムの余剰生地は耐性も強く、2013年から中古衣類・デニム生地をリサイクルして、子どもたちのためのスクールバックを生産・販売しています。生産メンバーは、シングルマザーやHIV陽性の女性たちになります。2017年9月からはビニール袋が使用禁止になり、女性たちの買い物用のエコバックの製作にも力を入れています。スクールバックは、子どもたちに無償配布もされていますが、併せてバックには、「Stop Child Labors!」や「Stop DV」といったメッセージをつけることにより、貧困層へのアドボカシー効果も狙います。</p> <p>新型コロナウイルスによる感染症への対策として、「Wear your Mask」や「Wash your hands」などの地域の公衆衛生の向上を狙ったメッセージを付けたバックも製作します。</p> <p>SDG1・5・12の達成を目標にリサイクル促進による循環型社会形成と女性の自立のための収入向上の一環として、一過性で活動を終わらせないためにも事業の継続によるスケールアップを狙います。活動地域は、貧困層が多く生活し団体がこれまで活動を行い、在ケニア大使館が作成する治安地図でも安全が確認されている、Baga Dogo 地区になります。</p>

②活動の目標：

行政と協議しモデル区域を設定し、そこを重点的に清掃活動、プラスチックの分別回収を進めています。また循環型社会形成のため自助支援にもつながる女性グループによるリサイクルバックの生産にも力を入れて取り組んでいきます。1年目の活動によって培われた成果を点から線に、地域に広げていくためにも団体のスケールアップとキャパシティの拡張、そして持続可能な活動の継続が今後の目標です。参加する女性たちが活動を通じて、相互に助け合う機運も高まってきており、環境活動をベースにしながら脆弱な立場にある女性たちの支え合いの輪を広げていきます。

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

【実施内容①】

キャパシティビルディング・・・2年目となる本活動では、引き続きセキュリティ等の観点からも女性たちが安心して活動に打ち込める作業場を設置し、リサイクル・エコバックの製作を行っています。コロナ対策の観点からも、十分な保健の知識のある Community Health Worker (CHW) も配置し、手洗いの徹底や活動前の検温も行っています。団体活動を通じて、コミュニティ内での本活動の周知も広まり、活動参加希望者も増えてきています。ミシンの扱いに慣れていない参加者が多くなってくると、どうしてもミシンの傷みも早まりますが、貴助成のお陰で新たなミシンの補充も行うことが出来ました。バックにつけるアドボカシーメッセージも、HIVの啓発メッセージやコロナ対策、環境・教育問題など多岐にわたり、女性たち自らが考えたものを発信することで、草の根での持続可能な社会づくりのための土壌の醸成に努めています。

【実施内容②】

女性たちの裁縫研修・・・昨年度に引き続き、ケニアで30年近い活動実績をもつ日本のNGO アフリカ教育児童の会での裁縫研修を2023年1月に実施しています。10名の女性たちが参加し、製作するバックの品質向上のための技術の向上とともに泊まり込みの研修を行うことで、女性たち同士の連携の強化も図っています。今回は、ミシンの使い方の基礎訓練も行いながら、よりバリエーション豊かなエコバックのデザインについて、学ぶことができました。

(2) 実施成果：

活動を継続することで、口コミでも本活動のことはコミュニティ内に広がり、新規の活動参加希望者も増えてきています。コミュニティ活動ですので、基本的には希望者には参加する機会を提供していますが、ミシンの扱いに慣れていない参加者が増えるとどうしてもミシンの傷みが早くなり、ミシンの修繕費にかかるコストも増えてしまいます。対策としてミシンの基礎訓練も適宜行いながら、機材を大切に扱うよう、指導も行っています。

今期は、原油価格の高止まりと世界的なインフレに日常生活が影響を受ける中、作業場は、日常の問題を共有し話し合う女性たちの憩いの場としての機能も果たし、わきあいあいと活動に取り組む女性たちの姿は、ナイロビ川河川敷の植樹活動や、学校支援活動など、団体が行う他の活動にも良い影響をもたらし、特にゴミの分別回収活動に参加する女性たちの人数も増えるなど、正の効用もございました。HIV 陽性やシングルマザーも多いコミュニティですが、そういったネガティブな要素に負けない、パワフルで温かいアフリカ女性たちの魅力に支えられています。

お互いを思いやることを忘れずに、作業場に子連れで来る女性たちも増え、子どもたちの面倒を互いに見合ったりしながら活動を継続させています。

バックにつけるアドボカシーメッセージもコロナ対策のものから、HIV 対策へのシフトも進んできています。それも自発的に女性たちが話し合う中で決まっており、やはり継続させることによる活動へのモチベーションとコミットメントの高まりも感じるどころです。

リサイクルバック製作活動は、コミュニティの女性たちをつなぎエンパワーメントする団体の活動のコアとして確かな成長を遂げてきています。

(3) 得られた教訓など：

初期のころから頻繁に活動に参加していた Millicent さんが、7月に突然いなくなり、それまで生活していた場所からも姿を消し、皆で心配しておりましたが、年明けの1月にひょっこりと戻って参りました。しばらくつてを頼って、地方に行かれていたようですが、やはり女性たちの活動場所が、自分の居場所だと感じ、戻ってきたとのこと。無事であったこともうれしいですが、そのように感じてまた活動に戻ってきてくださるのも、活動が女性たちをつなぐ絆としても機能していることの現れとも感じています。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

引き続き、コミュニティの脆弱な環境にさらされている女性たちのエンパワーメントとして、そして、草の根での循環型社会形成のための礎として本活動を継続させて参ります（貴助成での活動は3年目に入っております）。活動に参加する女性たちの数、製作されるバックのバリエーションやアドボカシーメッセージの種類等、右肩上がり成長してきておりますが、バック製作が女性たちにとっても絆の形成につながり、また団体がコミュニティで行っている他の環境活動にも、参加者数の増加や規模のスケールアップ等、正の相乗効果をもたらしてくれるよう精力的に活動に取り組んで参ります。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

リサイクルバック製作活動そのものへの関心も高まっておりますが、参加している女性たちの中から団体の行っている他の活動（植樹活動、ゴミの分別回収活動等）への関心も高まり、より多くの方たちに活動に参加していただけるようになりました。団体活動にとって、どれだけの地域住民の方たちに関心をもって参加し、取り組んでいただけるか、というのは常に問題意識を持って取り組まなくてはならないことですが、本活動を軸に、活動のムーブメントがより厚みを帯びてきたことは、とてもうれしく感じています。現地の団体代表、スタッフも、活動を経るごとにたくましさを増し、成長してきていることも日々の連絡の中で強く感じています。循環型社会形成のための活動を持続可能なものにしていく、まさにその途上にあることを実感できることは大きな喜びでもあります。

(2) 活動の写真

(邦人スタッフと活動中の様子)



(購入したミシンのセッティング)



(研修中参加者集合写真)



(研修で製作したバック)



(活動中に団らんする女性たち)



(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

JICA のお名前は、ケニアでも国際協力・開発を担う日本の組織としてよく知られており、その JICA の基金で活動しているということは団体活動にとりましても、その信頼性と確実性から大きな広報効果があり、また参加する女性たちにとりましても誇りとなっております。4 半期ごとに報告書を提出することも、団体の活動を見直すための良きマイルストーンとして機能いたしましたし、助成活動の確認からお支払いまでの一連の事務の流れもご担当者の方に良くご指導いただき、本当に助かりました。どうか引き続き、本活動を温かくお見守りくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。